

専門分野

授業科目	在宅療養を支える技術	講師	氏名	①藤本祥子 ②西岡加代子 ③橋本喜美代	開講年次	単位・時間				
			所属	①②専任教員 ③訪問看護ステーション						
			実務経験	①②臨床看護師 ③訪問看護師						
科目のねらい	在宅療養の主体は療養者と家族であり、社会資源・多職種の支援を活用しながら日々暮らしている。専門職として私達は先ず、療養者と家族が在宅療養を決定した背景・思いを理解することが重要である。その上で在宅療養者の疾患・病期・生活状況をアセスメントし、在宅での生活者の視点に沿った在宅看護援助を検討しなければならない。その為、この授業では演習を通して在宅にある物品を活用した援助方法を検討する。更に療養者の状況に合わせた観察、緊急時の対処方法を身につけるための支援方法を習得する。									
到達目標										
知識・技術	1. 在宅看護における初回訪問時の目的および留意点を説明できる。 2. 医療処置を受けながら生活する療養者と家族への訪問看護の役割を説明できる。 3. 在宅で行われる医療処置について、看護のポイントが説明できる。									
思考・判断・表現	1. 療養者の生活に則した看護援助の工夫をグループワークを通して検討、実践することができる。 2. 信頼関係を構築するために接遇マナーが重要であることを演習を通して実践したことを基に説明できる。 3. 在宅で暮らす療養者、家族の思いを考え、述べるができる。 4. 在宅で出会う事例を基に訪問看護師の視点、家族・介護力のアセスメント内容について検討し発表を通して提案できる。 5. 訪問看護でのバイタルサイン測定を実施し病院で行う違いに気付き説明できる。									
主体的学習態度	1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることが出来る。 2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。									
科目評価	定期試験(筆記) 80%    ループリック評価によるレポート評価 10%    リアクションシートによる評価 10%    合計100%									
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 (メディカ出版)									
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)									
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項			
		講義	演習	その他						
1	在宅における援助技術 (1) 初回訪問・食事のアセスメント	○			藤本祥子	文化人類学 多言語コミュニケーション 医療現場のコミュニケーション 在宅看護総論	ジャージで演習：教科書で初回訪問に必要なことを学び一般的な接遇マナーを復習し、実践が出来るようにイメージトレーニングしておく。			
2	在宅における援助技術 (2) 初回訪問		○							
3	在宅における援助技術 (1) 排泄・清潔・移動アセスメント 物品の工夫	○	○		西岡加代子	各専門看護学	教科書で在宅での食事・排泄・清潔・移動について確認し、病院と在宅の違いについて考えておく。  ジャージで演習：療養生活を支える援助技術で学習した援助技術を病院ではなく、在宅にある物品や身近にある物を利用して工夫して実施する。グループで援助を検討し実践する。  在宅看護論実習で使用している記録を使ってアセスメントする。  GW：事例をグループワークで検討し「療養者及び家族が在宅療養を選択した理由」について発表  発表			
4	在宅における援助技術 (2) 洗髪、足浴、スライドシートを使った移乗	○	○							
5	ベッド上で行う洗髪の援助：物品の工夫		○							
6	ベッド上、入浴室で行う足浴の援助：物品の工夫		○							
7	訪問時のアセスメント		○							
8	在宅での看護過程の特徴		○							
9	在宅看護介入 (1) 在宅療養移行期	○								
10	(2) 在宅療養安定期	○								
11	(3) 急性増悪期	○								
12	(4) 終末期 (看取り期)	○								
13	事例検討：脊髄損傷 アセスメントの視点	○	○							
14	データベース作成	○	○							
15	家族・介護力のアセスメント	○	○							
16	まとめ	○	○							
17	訪問看護におけるバイタル測定 医療処置 コミュニケーション 教育指導の実際 (臨床との違い)	○	○					橋本喜美代	各専門看護学	ジャージで演習：診療補助援助技術を復習しておく
18	①バイタル測定	○	○							
19	②服薬管理・指導方法 ③呼吸管理、人工呼吸器 気管カニューレ 在宅酸素療法	○								
20	④カテーテル管理、膀胱留置カテーテル 持続皮下注射	○								
21	⑤褥瘡予防・処置 排泄の援助、ストマ管理	○								
22	⑥栄養管理、経管栄養法、胃ろう・注腸 在宅中心静脈栄養法	○								
23	⑦重症患児の在宅療養における援助技術 ⑧在宅ターミナル期の援助	○								
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。									